

令和8年度 飯岡校区タウンミーティング 発言要旨

【日 時】令和 8 年9月 15 日(火)19:00～20:30

【場 所】飯岡公民館

【参加者】地域:17 人(連合自治会長ほか)、傍聴:11人

市:市長、市民生活部長、環境部長、産業部長、危機管理監(代理)、飯岡公民館長(司会)

【テーマ】(1) 鳥獣対策について

(2) 河川の整備について

(3) 避難所運営について

(4) デマンド交通について

(5) フリートーク

①担い手世代が考える飯岡の地域づくり

②小学校の環境整備について

③消防団からの意見について

④歩道橋について

R8.9.15 当日の発言内容

挨拶(飯岡校区連合自治会長)

- ・本日は、地元出身の市長を迎えての、地元にとって記念すべきタウンミーティング。
- ・飯岡の実情を把握している市長だからこそ、言いにくいことも含めて、様々な意見を交わして頂きたい。
- ・本日のタウンミーティングが、将来の飯岡の地域づくりに向けた「はじめの一步」となることを期待している。

市長挨拶(西条市長 越智三義)

- ・今回のタウンミーティングでは、机を円形に配置し、上下関係なく、皆さんが話しやすい場にした。
- ・大切にしたいのは「誰が言ったか」ではなく、「何を言ったか」ということ。声を上げにくい人の声をいかに聞くかということも大切にしていきたい。
- ・20 年後、30 年後の飯岡をどうしていくのか、皆さんと一緒に考えていきたい。
- ・飯岡地区の人口は、20 年前の 6,248 人から、令和 7 年度末には 5,481 人となっている。
- ・年少人口は 157 人減少、生産年齢人口は 1,150 人減少、一方高齢者人口は 541 人増加している。
- ・空き家や耕作されなくなった農地など、地域にはさまざまな課題が見えてきている。
- ・こうした課題は行政だけでは解決できないため、地域の皆さんと共に考え、共に地域をつくっていきたい。

(1)鳥獣対策について

■参加者

- ・半田の上の「秋都庵」の北側の竹藪に、サルが生息している。
- ・近隣の住宅に入り、物を持ち去ったり、スイカなどの農作物を荒らしたりする被害が発生している。
- ・サルは徐々に山から下りてきており、今後、住宅地や学校周辺で人への被害が発生することも心配される。
- ・周辺には小学生や高齢者も多く、安全面についても不安を感じている。
- ・橘校区では駆除されたと聞いたので、そういった対策を市として講じてほしい。

●市長

- ・イノシシやシカ、サルなどが山から徐々に人里へ下りてきていることは、皆さんご承知のとおりだと思う。
- ・鳥獣被害対策については、行政だけで対応するのではなく、地域の皆さんと一緒に取り組むことが重要。
- ・地域によっては、住民自らが狩猟免許を取得し、地域で鳥獣を捕獲する取組も進められている。
- ・丹原地区では、西村さんはじめ、農業者と猟友会等が連携し、農作物への被害が確認された段階で罠を設置するなど、地域ぐるみでの対策を行っている。
- ・サルについては、空き家周辺に残っている果樹なども餌場となるため、管理されていない果樹を伐採するなどの対策も必要。
- ・また、飯岡地区では、複数の自治会に対して、サル対策のための煙火を配布している。
- ・10月には、専門家を招き、まずはサルの生態や行動を知るための講習を実施する予定。
- ・鳥獣被害の背景には、山間部の人口減少や山の整備不足など、ここ2,30年の積み重ねがある。
- ・地域でできることから地道に取り組んでいく必要がある。

■参加者

- ・他地域の鳥獣被害対策事例や相談先について、情報共有してほしい。

●市長

- ・他地域での取組や、うまくいかなかった事例も含めて共有していきたい。
- 10月に行われる専門家を招いての「サルを知る講習」など、こうした取組を一步ずつ進めていく必要がある。

■参加者

- ・橘で地獄檻という罠をサルにかけたと聞いた。

●産業部長

- ・現在、猟友会が市内4か所で地獄罠を設置しており、橘地区ではこれまでに約47頭を捕獲している。
- ・地獄罠は、捕獲できるようになるまで数か月の餌付けが必要で、設置場所にも広いスペースが必要となるため、地域や猟友会と相談しながら進めていくことが必要になるかと思う。
- ・市からの補助もあるため、詳細については林業振興課で相談してほしい。→林業振興課長へ依頼

(2)河川の整備について

■参加者

- ・室川、松本橋から下流側や、国道 11 号から下流側付近の河川内に雑草や雑木が生い茂っている。
- ・大雨が降った際の河川の流下能力への影響が心配される。
- ・草であれば大水が来れば倒れるという県の考えもあるが、放置すると雑木化してしまう
- ・その前に市からも県に対して、河川の適切な管理を要望してほしい。

●市長

- ・松本橋付近の雑木等については、令和 8 年度に撤去作業を予定していると県から確認している。
- ・グリーンハイツ付近の蛇行部分についても、氾濫リスクが高い箇所について一部撤去作業を予定している。
- ・平成 16 年の水害では飯岡地区でも大きな被害があったことを認識しており、県とも連携しながら進める。

■参加者

- ・南海トラフ地震が発生した場合、飯岡地区には多くの橋梁があるが、耐震性は確保されているのか。
- ・今後、耐震補強を行う場合の計画についても教えてほしい。
- ・また、飯岡地区にはため池も多く、大雨や地震の際の安全性についても確認してほしい。

●市長

- ・橋梁については定期点検・長寿命化対策を行っている。
- ・松本橋は長寿命化対策済み。オレンジハイツの跨線橋は耐震化対応済みかと思う。
- ・橋梁ごとに優先順位を付けて対応している。
- ・ため池についても順次点検・対策を行っている。
- ・ため池については、堤体の安全性だけでなく、大雨の際に適切に水位を下げるなど、日常的な管理も重要。
- ・飯岡地区では、ため池の管理を地域の農業者などが担っているが、高齢化により担い手が減少している。

(3)避難所運営について

■参加者

- ・9 月の初めに避難訓練を実施したが、避難所受付の方法について、市の担当者によって説明が異なった。
- ・新居浜市ではマイナンバーカードや QR コードを活用した避難所受付が行われていると聞いているが、西条市ではどのように考えているのか。

●市長

- ・避難所受付における QR コードの活用については現在検討しており、早期に実現したいと考えている。
- ・マイナンバーカードの読み取りについては、現時点ではまだ導入には至っていない。
- ・熊本地震の被災地である熊本県氷川町へ市職員を派遣し、避難所運営の支援を行っているが、実際に避難所を開設する際には、避難者の受付が大きな課題となっていた。

- ・もし、避難所に誰もいない時間であれば非常に厳しい。
- ・被災して、職員や学校関係者が避難所に参集できない可能性がある。
- ・そのため、行政だけで避難所を運営することには限界があり、自助・共助の力が重要になる。
- ・地区防災計画に基づき、地域の皆さんが具体的に避難所を運営できるよう、訓練を重ねていく必要がある。

■参加者

- ・飯岡小学校の小さいほうの体育館について、以前は雨漏りもあったが、修繕されているのか？

■参加者

- ・それは修繕されている。

■参加者

- ・体育館には空調設備がなく、災害が発生した際には近隣から飯岡小学校へ避難するよう案内されている。
- ・夏場に空調のない体育館で多くの避難者を受け入れることに不安がある。
- ・避難所として学校を使用することを考えれば、空調設備の整備を進めてほしい。

●市長

- ・全国的に学校体育館への空調整備が進められているが、西条市では現時点で整備されていない。
- ・新居浜市や四国中央市でも整備が進められている。
- ・西条市としても、学校体育館への空調設備の整備を進める方向で検討している。
- ・1校当たり約1億円程度の費用が必要となるため、すべての施設を一度に整備することは難しい。
- ・学校再編を進めながら、今後、優先順位を付けて整備していきたい。
- ・災害時には、体育館に空調がない場合、まず校舎の教室を避難所として活用するなど、状況に応じた対応も必要となる。

■参加者

- ・地域交流センターは、畳の部屋や風呂、エアコンなどがあり、避難先として希望する住民も多い。
- ・一方で、ロビーや通路にはエアコンがなく、避難者が過ごす環境として課題がある。
- ・また、自動販売機などもなく、飲料水の確保にも不安がある。
- ・避難所として利用することを考え、ロビー等への空調や飲料水の確保についても対応してほしい。

●市長

- ・地域交流センターなど多くの公共施設について、すべてを同時に整備することは財政的にも難しい。
- ・まずは学校体育館など、避難所として重要性の高い施設から優先して整備していきたい。
- ・人口減少が進む中、すべての公共施設を将来にわたって残していくことも難しくなっている。
- ・施設のあり方についても、地域の皆さんに丁寧に説明しながら、一緒に考えていきたい。

■参加者

- ・飯岡小学校の西体育館は、耐震補強終わっているのか？

●市長

- ・終わっている。

■参加者

- ・飯岡小学校の避難所としての利用について、どの部屋を何に使うのかという平面的な配置図がまだ十分にできていない。飯岡の防災士と一緒に考えられないか。
- ・防災備品を保管するための倉庫についても整備してほしい。

●市長

- ・避難所の運営については、地区防災計画に基づき、地域の皆さんと一緒に考えていきたい。
- ・地域の方が一番その施設をよく知っているため、高齢者が避難する部屋、子どもや母子が避難する部屋など、地域の実情に合わせて決めていくことが重要。
- ・特に配慮が必要な方については、福祉避難所の活用なども含めて検討していく。

(4)デマンド交通について

■参加者

- ・令和 4 年 10 月から始まった「西条市地域予約制乗合タクシー（寄り添いタクシー）」について、開始当初は、バスの廃止に伴う交通不便者への新たな移動手段として期待していた。
- ・ただ、利用方法が分かりにくく、目的地への移動や帰りの時間、運行日などについて不便を感じる声もある。
- ・飯岡地区では、制度そのものを十分に知らない人も多いと感じている。
- ・一方で、実際に利用した高齢者からは、「便利だった」「安心して利用できた」という声も聞いている。
- ・交通手段を持たない高齢者や免許返納者にとっては、移動手段の確保が生活に直結する重要な問題。
- ・現在は週 2 日、火曜日と金曜日に運行しているが、運行日や便数を増やしてほしいという声が多い。
- ・制度の利用方法について、より分かりやすく、継続的に情報発信してほしい。
- ・利用者の状況や身体の状態など、一人ひとりの事情に寄り添った制度となるよう、見直しを検討してほしい。

●市長

- ・現在、寄り添いタクシーは週 2 日、4 便運行している。
- ・制度が少し分かりにくいことは認識している。
- ・乗合方式なので、例えば同じ地域の住民が 3 人で一緒に病院や買い物に行くなど、うまく活用できれば便利な制度になる。
- ・実際の利用事例などを紹介しながら、高齢者の方などに制度を知ってもらう機会を設けたい。

■参加者

- ・令和 4 年の制度開始時には説明を受けたが、その後、利用方法について説明を受ける機会が少なかった。
- ・免許返納をした人などからも、寄り添いタクシーのような制度をもっと利用したいという声を聞いている。
- ・病院、市役所、金融機関、買い物など複数の目的地を利用する場合、帰りの便まで長時間待たなければなら

ないことがあり、不便を感じる。

- ・実際の利用者の声を聞きながら、もう一度制度のあり方を検討してほしい。
- ・また機会があったら来ていただいて、お話ししたい。

●市長

- ・そういう場を持たせてください。

■参加者

- ・乗り合いタクシーが火曜日と金曜日のみの運行となっているが、運行日の設定について、利用実態などのデータを踏まえて決めているのか。
- ・国道 11 号まで出なければならぬ地域もあり、バス停までの移動も負担となっている。
- ・運行日の拡充を検討できないか。

●市長

- ・現在の週 2 日、4 便という運行については、当時の利用状況や外出頻度などのデータを基に設定している。
- ・西条市では公共交通に年間約 1 億 3,000 万円を投入している。
- ・運行日を増やす場合には、稼働率や費用対効果なども考慮する必要がある。
- ・今後、高齢者や免許返納者が増加することも踏まえ、運行日の拡充については検討していく。

(5)フリーストーク

①担い手世代が考える飯岡の地域づくり

■参加者

- ・飯岡本郷地区で昨年から青年団として活動している。
- ・若者が県外へ進学・就職した後に戻らないケースや、地元に残っていても祭り・地域活動に参加しないケースが増えていると感じる。
- ・一方、青年団には祭りや飯岡が好きで地域に残り活動する若者も多く、こうした若者同士のつながりや活動を今後も残していきたい。
- ・若者が地域に残り、地域活動を担っていけるよう、市としてどのような取組を考えているのか聞きたい。

●市長

- ・若い女性の市外流出は市全体の課題であり、若者が地域に残るには、まず働く場所が必要である。
- ・西条市・新居浜市で働く場所をつくる取組を進めており、企業誘致などを通じて、若い世代が働ける場所を増やしていきたい。
- ・丹原地区では、農業を軸に、食、体験、滞在などを組み合わせ、空き家を改装して人を呼び込むなど、新たな仕事や人の流れをつくる取組が始まっている。農業を単なる農作物の生産にとどめず、観光やデザイン、サービスなど、さまざまな仕事につなげることで、若者が働ける場所をつくっていきたい。
- ・また、造船、半導体、宇宙産業など、地域のものづくり企業においても、働く場所をつくっていきたい。
- ・一方で、働く場所だけをつくれれば若者が戻ってくるわけではない。住む場所、教育、医療、産婦人科、買い物、

文化など、暮らし全体の環境を整える必要がある。

・空き家についても、今後、相続などを含めて大きな課題となるため、働く場所をつくることと、住み続けられる地域をつくることの両面から取り組んでいきたい。

■参加者

- ・自分の娘が、飯岡小学校、西条東中学校で子どもを育てたいという思いから、県外から飯岡に戻ってきた。
- ・飯岡で子どもの頃から地域の行事や学校行事に参加し、地域への思いを持ってもらうことが、将来的な U ターンにもつながるのではないかな。
- ・現在、PTA の活動などで、自分の子どもの同級生と一緒に地域活動をする機会も増えている。
- ・飯岡には、まだまだ若い世代が地域を盛り上げていく力があると感じている。
- ・若い世代が地域の魅力を感じられるよう、今後も地域活動を続けていきたい。

②小学校の環境整備について

■参加者

- ・少子化による児童の減少を身に染みて感じます。
- ・子どもたちの環境を整えるため、学校周辺の樹木などの管理についても行政の協力をお願いしたい。
- ・大きな木など、素人では剪定が難しいものもあり、順番もあり、対応までに時間がかかる場合がある。

■参加者

- ・中庭も大木がどんどん大きくなっている。
- ・今は児童数が 300 人を切っており、掃除も大変。

●市長

- ・学校周辺の樹木については、また言うてほしい。危険なものについて優先的に対応していきたい。
- ・昔から地域で大切にされている木もある一方、倒木などによって事故につながる可能性もある。

③消防団からの意見について

■参加者

- ・旧伊藤石油前の歩道整備について、現在の進捗状況を確認したい。
- ・高砂町の道路について、水路に蓋をすることで歩道を広げられないかな。
- ・国道 11 号の室川橋付近について、右折レーンや右折信号がないため、右折レーンを設置できないかな。

●市長

- ・旧伊藤石油前の歩道整備については、今年度実施する予定。
- ・高砂町の水路への蓋掛けについては、土地改良区や水路管理者と協議し、実施できる方法を検討する。ただ、ゴミステーションの位置などについても、自治会等と調整する必要がある。
- ・国道 11 号の室川橋付近については、右折レーンを設置するためには橋の拡幅など大規模な工事が必要となり、現時点では難しいのではないかな。もちろん、市として国等へ要望は行っていく。
- ・一方で、市内には様々な道路整備の要望があるため、全体の優先順位を考えながら進めていく必要がある。

■参加者

- ・時差式信号や右折矢印信号にできるのでは？

●市長

- ・右折レーンだけでなく、時差式信号や右折矢印信号などの方法についても要望していきたい。

■参加者

- ・飯岡地区には空き家が多く、崩れかけて危険な空き家もある。
- ・自治会として市へ要望書を提出したこともあるが、その後の空き家対策について確認したい。

●市長

- ・西条市内には約 7 万 6,000 棟の建物があり、そのうち約 5,992 棟が空き家となっている。
- ・その中でも、老朽危険空家は 327 棟あり、今後さらに増加することが懸念されている。
- ・空き家問題は全国的な課題であり、市だけでは解決できない制度上の問題も多い。
- ・所有者や相続人がいる場合には、原則として市が税金を使って解体することはできない。
- ・一方、所有者や相続人がおらず、倒壊等によって周辺に重大な危険が及ぶ場合には、行政代執行によって市が解体する場合がある。
- ・9 月議会において、特に危険な空き家について行政代執行を行うための予算をはじめて計上している。
- ・空き家になってから時間が経つと、管理状態が急速に悪化するため、所有者が健在なうちから、将来その家をどうするのか考えておくことが重要。
- ・県外に住んでいる相続予定者などにも、早い段階から家の管理や活用について考えてもらう必要がある。

■参加者

- ・飯岡のある空き家について、壊して、相続人に請求したらいいのでは？

●市長

- ・それはできない。

④歩道橋について

■参加者

- ・以前から要望している歩道橋について、改修・架け替えをお願いしたい。

●市長

- ・歩道橋については、架け替える方向で検討している。
- ・これから具体的な方法を検討していく。
- ・時期については現時点で確定していない。

市長総括

●市長

ふるさと納税を活用した地域活動への支援について

- ・市とパートナーシップを結んだ地域組織に対しては、ふるさと納税を活用して地域活動に資金を還元する仕組みがある。
- ・例えば、飯岡出身者が飯岡のために1万円をふるさと納税した場合、85%(8,500円)を地域活動に活用できる仕組みとなっている。
- ・この仕組みは愛媛県内では西条市だけが取り組んでいるものであり、地域活動の新たな財源として活用してほしい。
- ・飯岡のためにできること・できないことを明確にしながら、市全体の行政運営を考えて取り組んでいきたい。
- ・今回のタウンミーティングでは多くの団体から意見が出され、飯岡を盛り上げていこうとする意欲を感じた。
- ・今後も引き続き、地域の皆さんと飯岡を盛り上げていきたい。

連合自治会副会長挨拶

■参加者

- ・飯岡の地域づくりについて、分かりやすくすごくいい話をいただいた。
- ・行政が頑張る前に、自分たちでもっと飯岡を盛り上げていけば、きっと行政がついてくると思う。
- ・子どもたちに「飯岡はいいところだ」と思ってもらえるよう、親や祖父母の世代から地域の魅力を伝えていきたい。